

こころ育てる絵本との出会い

マカちゃん通信

2020 2 - 3 vol. **60**



絵本作家インタビュー いせひでこ

特集 絵本との再会

いせひでこ



現場感覚にこだわり、
実感したことだけを
ひたすら手を動かして描く。

いせひでこ(伊勢英子)プロフィール

画家、絵本作家。1949年札幌生まれ。5歳の時、保育園で絵本に目覚める。以来、三つの要素が現在の絵本作家の骨格となっている。

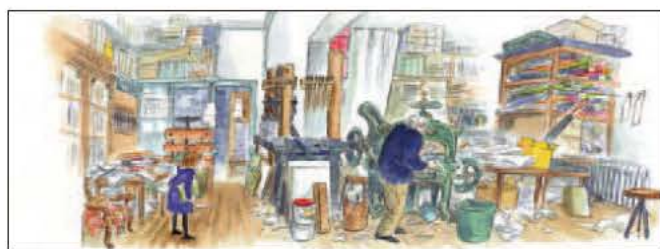
- ①13歳まで北海道で育ったこと。
- ②13歳からチェロを学んできたこと。
- ③東京藝術大学卒業後1年余パリで生活したこと。

現場主義に徹し、スケッチの旅から生まれた作品が多い。絵本に『ルリユールおじさん』『大きな木のような人』(ジョルジュ・メテリエ/監修 講談社)『にいさん』(偕成社)『あの路』(山本けんぞう/文 平凡社)『1000の風 1000のチェロ』『チェロの木』(ともに偕成社)など多数。詩人 長田弘との絵本に『最初の質問』『幼い子は微笑む』(ともに講談社)、エッセイに『旅する絵描き』(平凡社)『ふたりのゴッホ』(新潮社)『七つめの絵の具』(平凡社)『見えない蝶をさがして』(平凡社)など。講談社出版文化賞絵本賞、産経児童出版文化賞美術賞、ほか受賞多数。

絵本原画展開催

令和2年2月1日(土)～3月29日(日)

「ルリユールおじさん」(講談社)
舞台はパリ。大切にしていた植物図鑑がバラバラにこわれてしまったソフィーは、本をなおしてくれる人がいると聞いて、ルリユール(製本職人)を訪ねる。様々な道具や材料でこった返す仕事場にいたのは、父親もまたルリユールだったという老人。彼の手を経て、図鑑は新しく生まれ変わった。



原画展示絵本

早春のギャラリーでは、絵本『ルリユールおじさん』をご紹介します。
2年に及んだ制作の末に描きあがった原画全点を余すことなくご覧いただきます。

いせひでこ先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

ずーっと児童文学のさし絵の仕事ばかりでしたが、『さしき童子のはなし』（宮沢賢治／作 講談社 1985）『むぎわらばうし』（竹下文字／作 講談社 1985）で、絵本が描けることを確信しました。

画材は何を使っていますか？

芸大卒業以来、アクリル絵の具ばかりでしたが12、3年前から水彩です。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

『ルリユールおじさん』

こんなに楽しい絵本作りはありませんでした。パリの裏路地でたまたま見た小さな窓の中に物語を感じて、名も知らぬ工房のルリユールおじさんに会いに2年余り通いました。計5回の取材で、工房周辺のスケッチをしているうちに樹齢400才のアカシア

に出会い、それが次作の植物園の物語につながっていきました。

『ルリユールおじさん』はすぐ仏語版も出版され、パリ中の書店に『ひと目ぼれ！』のポップと共に平積みになり、ルーブルやオルセーの美術館でも並べられました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象
深い絵本は？

『絵描き』です。ただただ自分の旅を、スケッチの日々を、描き連ねたら絵本になっていた。した。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

現場感覚。実感したことしか描けない。ITは使わない。テーマは後からついてくるものなので、ただひたすら手を動かします。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

その人その人の読み方、感じ方があると思います。絵本は描いたら終わりではない。原画展を通して、さらにその作品世界を深く感じていただけると信じています。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

ルリユールの小さな窓のように、ある日モチーフは唐突にやってきます。それをつかまえるか見逃すかは、そのときの精神状態だと思つので、何とも言えません。

ご趣味についてお聞かせください。

チェロを弾くことです。

好きな言葉を教えてください。

「立ちどまらなければゆけない場所がある。」
長田弘さんのことばです。（『空と樹と』
エクリ所収「立ちどまる」より）

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

親子で、あるいは三代で読みつがれる絵本を見つけて大事にしてほしいです。
「わたしの本」、それこそが『ルリユールおじさん』のテーマです。

いせひでこ先生、ありがとうございました！

いせひでこ先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント



『ルリユールおじさん』
（講談社）

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
いせひでこ サイン本プレゼント係
締め切り 令和2年4月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。

いせひでこ絵本トーク 3月20日(祝・金) 14:00~

絵本作家・いせひでこ先生をお迎えします。
サイン会もあります！



福澤 幸人
富山県立図書館 館長

\特集/ 絵本との再会

子どもの読書を支援するために

『ぐりとぐら』の冒頭を読み終わると、当時、4歳の息子が「ぼくらのなまえはぐりとぐら このよで いちばん すきなのは おりよりすること たべることぐりぐらぐりぐら」と嬉しそうに私と一緒に続けるのでした。もちろん息子は絵本の文字を読めたわけではありません。母親が何十回と読み聞かせるうちに、自然とこのフレーズを覚えてしまっていたのです。とてもリズムカルな文章とシンプルな絵が効果的で、協力することの素晴らしさや作り上げたものを仲間と分かち合う喜びを伝えてくれる『ぐりとぐら』は、息子ばかりか、私の一番のお気に入り絵本でもありました。

息子が成長するにつれて絵本を読んでもる回数は徐々に減っていき、小学校入学後には、絵本を段ボール箱に入れて、物置で保管するようになっていました。絵本との接点は、この時点で一旦無くなったのですが、その後、思わぬ形で絵本や絵本の専門家等と接する機会が巡ってきたのです。

一つには、『ぐりとぐら』の作者である中川李枝子氏との出会いです。富山県生涯学習カレッジ本部で夏季講座を担当していた際、中川氏の講演をぜひ聴きたいと思い、上司の決裁後、私の思いを込めて、講演を依頼したい旨の手紙を書きました。手紙が手元に届いた頃を見計らって、電話で

もお願いすることにしたのですが、中川氏ご自身から電話を頂戴し、講師をご快諾いただいたのです。年度末に異動になったことに加え、夏季講座当日は都合がつかず、残念ながら講演を拝聴できませんでしたが、講演の筆録である県民カレッジ叢書89『子どもと共に』が発刊され、講演の内容を知ることができたことは、この上ない喜びでした。

もう一つは、富山県立図書館に勤務してから、一般図書をはじめ絵本の選書に携わっていることです。子ども時代の読書体験は生涯にわたる読書習慣の形成につながり、未来志向や社会性、自己肯定感等に影響を与えるという調査結果があります。読書体験を積み上げるためには、読書そのものが喜びや楽しみを与えてくれるものでなければならず、子どもが理解でき楽しめる本を手渡す大人の存在が必要です。子どもにも自信をもって薦めることができる(絵)本を今後も収集・保存・提供するとともに、「子どもと本の講座」等を通じて、子どもの読書活動に携わるボランティアや学校図書館関係者、図書館職員の資質向上に寄与できるよう努めてまいりたいと思います。

私のおすすめ絵本

『100万回生きたねこ』

佐野洋子／作・絵
講談社

愛することの素晴らしさを教えてくれる大人向けの絵本では？



『おべんとうばこのうた』

さいとうしのぶ／構成・絵
ひさかたチャイルド

見て、開いて、手遊びしながら歌って楽しいわらべ歌の絵本です。



『いないいないばあ』

松谷みよ子／文
瀬川康男／絵
童心社

二人の子どもに初めて読み聞かせた思い出の絵本です。



『はじめてのおつかい』

筒井頼子／作
林 明子／絵
福音館書店

主人公の行動や心情が文と絵で詳細に描写され大人の心にも響く作品です。



『三びきのやぎのからからどん』

マーシャ・ブラウン／絵
瀬田貞二／訳
福音館書店

生きていくための必要な教訓を教えてくれる力強い作品です。



『ぼくにげちゃうよ』

マーガレット・W・ブラウン／文
クレメント・ハード／絵
いわた みみ／訳
ほるぷ出版

親に対する子どもの信頼とそれに応える親の愛情が調和した作品です。

